

# 事故を防ぐために

## ① 乳幼児の手の届かない場所で使用しましょう

電気ケトルの本体が転倒すると、湯注ぎ口や上蓋周辺から湯がこぼれて熱傷を負う危険があります。

電気ケトルはコンセントがある場所ではどこでも使用できる商品ですが、床の上や棚の上に置いて使用すると、乳幼児が接触し、電気ケトルが転倒するおそれがあります。熱傷防止のためには、基本的に乳幼児の手の届かない場所で使用しましょう。

## ② 取扱説明書に従い、注意して使用しましょう

お湯の量が少ない場合、電気ケトルの重量が軽く、乳幼児の力でも倒れてしまうことがあります。一方で、満水目盛以上のお湯を沸かすと注ぎ口などから湯が噴き出しやすくなります。

熱湯が入っていることを忘れずに、取扱説明書に従い注意して使用しましょう。

## ③ 乳幼児のいる家庭では、お湯漏れ防止機能つきの商品を選びましょう

市販の電気ケトルの中には、本体が転倒した際に漏れるお湯の量を非常に少なくするなど、転倒による熱傷事故を防止するための安全対策が採用された商品があります。

購入時には、使用場所に乳幼児がいるかなどを考慮して、お湯漏れ防止機能等の安全対策がとられた商品を選ぶと良いでしょう。

**参 考** 熱傷を負った場合の対処については、公益社団法人日本小児科学会のホームページをご参照ください  
[http://kodomo-qq.jp/18\\_yakedo/index.php](http://kodomo-qq.jp/18_yakedo/index.php)

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。  
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。  
<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。  
 特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。  
 商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。  
 無断転載はお断りいたします。



独立行政法人  
**国民生活センター**

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2013年1月発行

デザイン=独立行政法人国民生活センター商品テスト部

# くらしの危険

Number

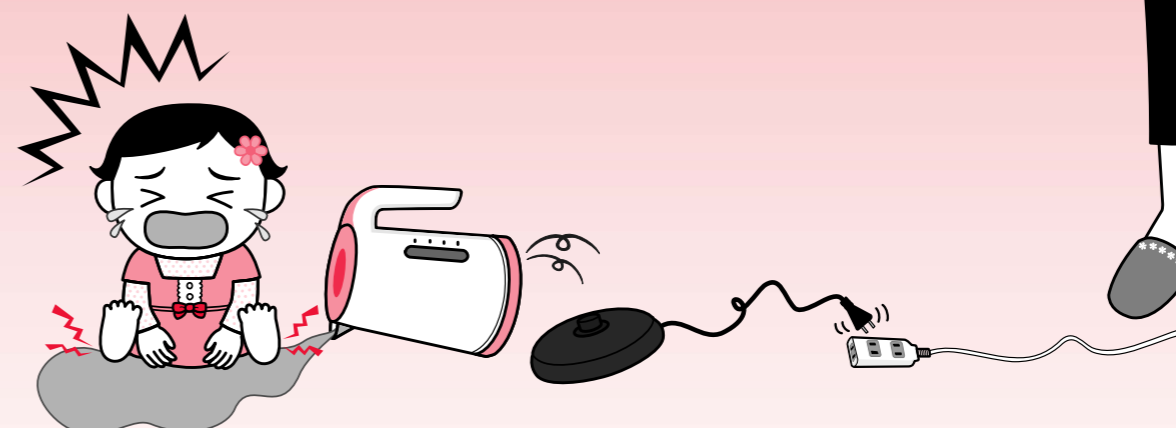
311

## 電気ケトルによる 乳幼児の熱傷

必要なときに必要な量だけ簡単・手軽にお湯が沸かせる電気ケトルが人気です。

一方で、電気ケトルが転倒・落下したことにより乳幼児が熱湯に触れ、熱傷を負ったという事故情報が寄せられています。

乳幼児は大人と比較して体表面積が小さく、皮膚も薄いため、熱傷を負った場合には重症化しやすいとされています。使用する際は、十分な注意が必要です。



## 電気ケトルの転倒による熱傷事故

医療機関ネットワーク\*には、電気ケトルの転倒等により乳幼児が熱湯に触れ、熱傷を負ったという事故が複数寄せられています。事故の原因は、床に置かれていた電

気ケトルに乳幼児が触れたり、コードを引っ張ってしまったたりして電気ケトルが転倒したというものでした。入院を要するような熱傷を負ったケースもありました。

\*生命または身体に被害を生じる消費生活上の事故情報を参画医療機関から収集し、国民への注意喚起などに活用することを目的として実施している事業。消費者庁と国民生活センターの共同事業であり、2010年12月より情報収集を開始した。

# こんな事故が起きています

**ケース 1** 電気ケトルを床に置いて使用していた。乳児がはいはいをして電気ケトルに触れて倒したようだ。家族が乳児の泣き声に気付いて見ると、乳児の体に電気ケトルのお湯がかかっていた。  
(顔・胸の熱傷、0歳)

**ケース 2** 電気ケトルを居間の床に置いていたところ、乳児が電気ケトルを倒してしまい、熱湯に触れ、両手に熱傷を負った。  
(手の熱傷、0歳)



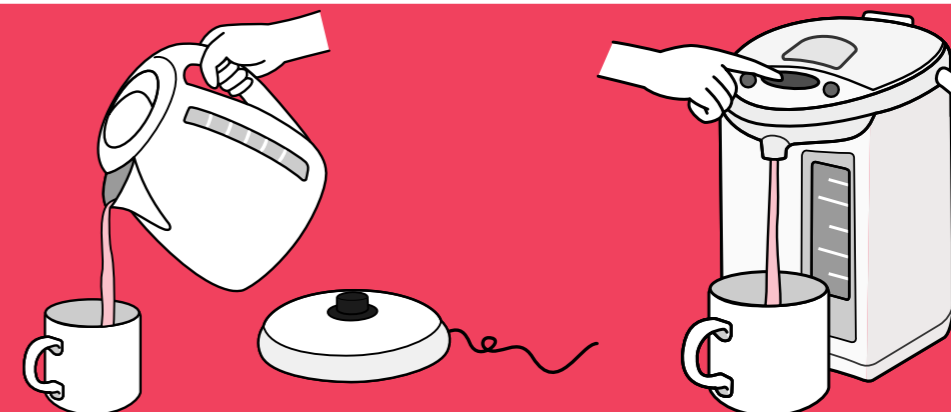
**ケース 3** 引き出すタイプの家具に炊飯器と一緒に電気ケトルを置いていた。台は引き出された状態で、幼児が電気ケトルのコードを引っ張ったようだ。台から落下した電気ケトルからお湯が流出し、足に熱傷を負った。  
(足の熱傷、1歳)



## 電気ケトルと電気ジャーポットの違い

電気ケトルも電気ジャーポットもお湯を沸かす機能は同じですが、以下に示すようにさまざまな違いがあります。

	電気ケトル	電気ジャーポット
使用目的・機能	使う分だけ早くお湯を沸かす 保温機能はないものが多い	お湯を沸かし、保温する(保温機能) 再沸騰機能が付いている
容量	1.7リットル程度まで	2~5リットル
お湯が沸くまでの時間	カップ1杯程度(約150ミリリットル) で1分以内	3リットルで15~30分
使い方	本体を傾けてお湯を注ぐ	本体を傾けず、モーターでポンプを 動かして上からお湯を注ぐ
転倒時の熱傷防止に関する機能	転倒時の湯こぼれ防止に関する機能が 付いていない製品も多い	JIS規格*に基づく転倒流水試験基準 (転倒時の流出水量:50ミリリットル以下) *JIS C9213「電気ポット」



## 熱傷事故防止のための安全対策がとられた商品も販売されています



フタにパッキンの仕組みを採用するなどして  
お湯が漏れにくい構造にしている例



転倒した際に注ぎ口が上を向くように設計して  
お湯が漏れる量を少なくしている例